

# 完了後の評価個表

整理番号	2-1
------	-----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道
ふりがな 地域(地区)名	しべちやちよう 標茶町	事業実施主体	北海道、標茶町、標茶町森林組合等
関係市町村	標茶町	管理主体	標茶町、標茶町森林組合等
事業実施期間	H15～H18（4年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等</p> <p>標茶町は、北海道東部の釧路根室流域の中央部から北部に位置し、酪農業を基幹産業としている。 阿寒国立公園の屈斜路湖を源とする釧路川は、本町を北部から南部にかけ縦断し、それを中心に東西に分けるように酪農地帯が広がり、下流部に南下するに従いオソツベツ川・ヌマオロ川等幾筋もの支流が合流し、釧路湿原国立公園から釧路市に至る大きな流れをつくり出している。 北部には西別岳山腹の国有林地帯を源に西別岳が別海町へ、南東部には大カラマツ人工林地帯が広がるパイロットフォレストを源とする別寒辺牛川が厚岸町へ流れ出ているなど、下流域住民の生活や産業に大きく関わりをもつ河川があり、森林が重要な役割を担っている地域である。</p> <p>② 森林の現況</p> <p>当町の森林面積58,946ha（森林率53.6%）のうち、民有林面積は34,557haで森林全体の59%を占めており、内訳は私有林が29,700ha（86%）、町有林が4,857ha（14%）となっている。 民有林の人工林面積は12,352ha（人工林率36%）であり、樹種はカラマツとトドマツが大半を占め、齢級構成では7齢級（35年生）以下の森林が55%を占めている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意識</p> <p>人工林の多くが7齢級（35年生）以下で除伐及び間伐等の保育を必要としているが、木材価格の低迷等に伴い、森林所有者の施業意欲が減退しており、森林の有する多面的機能の高度発揮が懸念される状況にあった。 また、森林経営の基盤となる林道等の路網が不十分であったことから、適切な森林施業の実施や効率的な木材生産に支障を来していた。 このため、計画的に除伐及び間伐等の森林施業を推進するとともに、路網が必要な森林において林道を開設することにより、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、もって森林環境の保全に資することを目的として事業を導入した。</p> <p>（事業概要）</p> <p>森林整備 植栽 875ha 下刈 3,637ha 除・間伐 1,451ha 受光伐 133ha 作業路整備 3,300m</p> <p>森林管理道整備</p> <p>① シラルトロ線 車道幅員 4.0m 開設延長 2,536m 利用区域面積 805ha ② シラルトロ支線 車道幅員 3.0m 開設延長 1,033m 利用区域面積 211ha</p> <p>総事業費 1,415,772千円 （当初総事業費 1,995,889千円）</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成24年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 なお、事業内容の変更や低コスト化に伴い、事業採択時に比べ総事業費・総費用が減少となったが、施業面積（便益発生対象区域）の増加により総便益が増加した。</p> <p>総便益（B） 21,392,816千円 （事業採択時 17,931,597千円） 総費用（C） 3,793,135千円 （事業採択時 4,037,717千円） 分析結果（B/C） 5.64 （事業採択時 4.44）</p>
-------------------------	--

② 事業効果の発現状況	<p>本事業で植栽されたカラマツやアカエゾマツの成長は良好であり、除伐及び間伐等を行った人工林も健全な森林として整備され、森林資源として充実してきている。 林道が整備された区域においては、森林施業の効率化、木材生産の低コスト化が図られた。</p>
-------------	---

<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>森林については、森林所有者自ら、又は、森林所有者から経営受託した森林組合が適正に管理を行っており、特に新たに植栽を行った森林については、その後も下刈り等の保育作業を適切に実施している。 開設した林道2路線については、標茶町が管理者となって、町が定めた林道維持管理規程に基づき、適正に維持管理しており、この林道を活用することで適切な森林整備が行われているところである。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>除伐及び間伐等の施業が実施された森林は、不用木の除去や不良木の淘汰等が適切に行われ、林内に日光が差し込むことで明るく健全な林分に改善された。 林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林道整備により、作業現場へのアクセスの改善、素材生産の低コスト化等が図られ、森林施業の意欲が徐々に増進されてきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向けて、地域が一体となって取り組んでいる。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>利用期を迎えつつある森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林施業の集約化や路網整備を通じて低コスト化を図り、計画的な森林整備を一層推進する必要がある。</p> <p>(地元の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。(北海道)</li> <li>・ 林道の開設後は、散策へ訪れる者が増加してきているとともに、森林災害等の早期発見に寄与している。(標茶町)</li> <li>・ 森林所有者の意識が高まり、作業の一層の低コスト化や搬出間伐の促進等、今後とも持続的な森林施業の実施に努める必要がある。(森林組合)</li> </ul>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 森林の有する多面的機能の維持・増進を図るための森林整備が計画的に実施されていること、造林、保育、素材生産等を効率的に行うためのネットワークであり林業の最も重要な生産基盤である路網が整備されたこと等から事業の必要性が認められる。</li> <li>・ 効率性： 森林整備については、喫緊の課題である間伐を優先的に実施していること、林道整備については、現地に応じた最も効果的かつ効率的な線形の設定に努め、工種・工法の選定に当たってもコスト縮減に努めていること等から事業の効率性が認められる。</li> <li>・ 有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持・増進に寄与していること、林道整備により森林整備面積が増加していること、さらに持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域をあげた取組に繋がっていること等から事業の有効性が認められる。</li> </ul>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

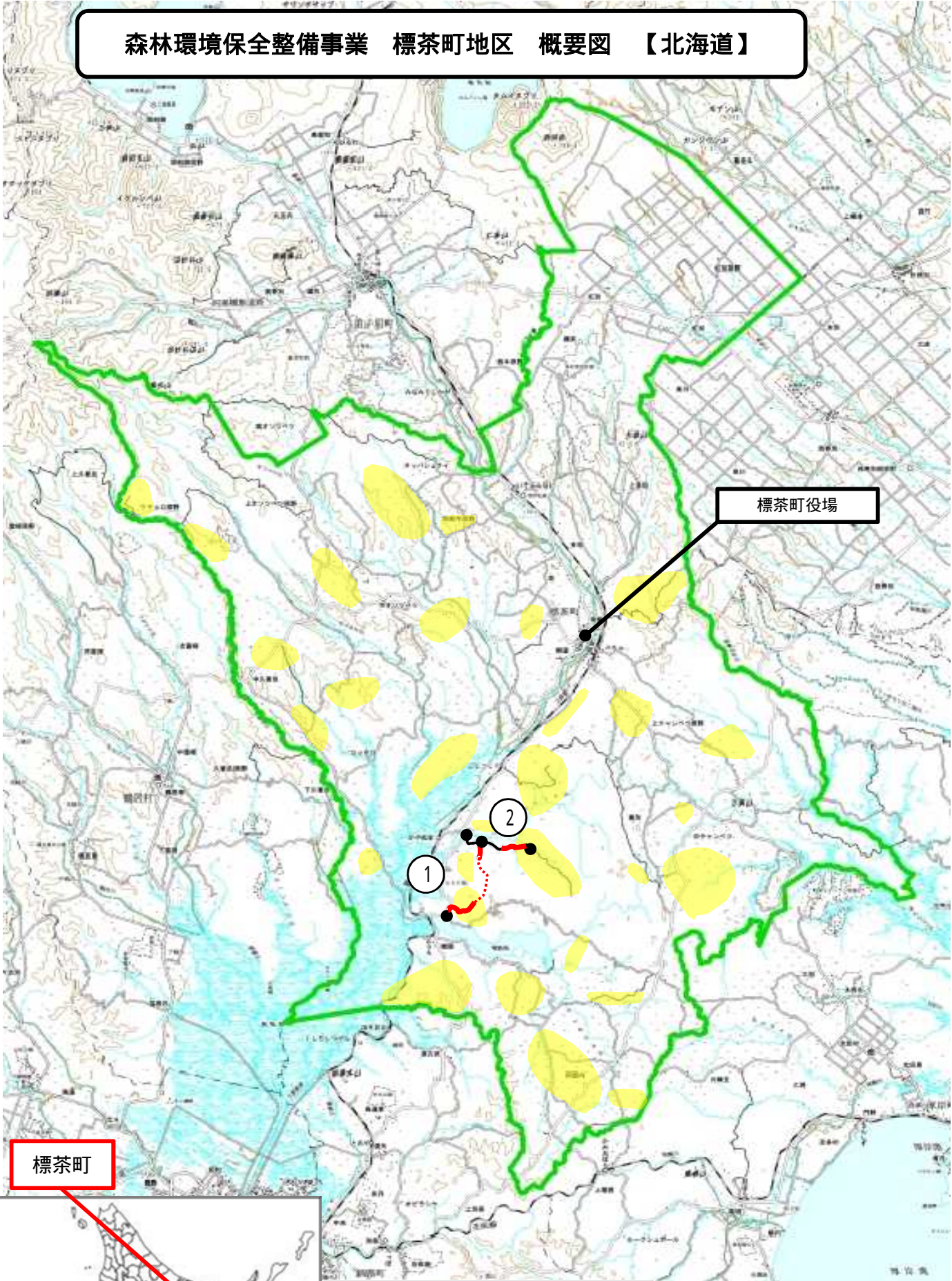
都道府県名: 北海道

地域(地区)名: 標茶町<sup>しべちやちよう</sup>

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	2,964,956	
	流域貯水便益	1,291,021	
	水質浄化便益	3,090,131	
山地保全便益	土砂流出防止便益	8,301,886	
	土砂崩壊防止便益	83,002	
環境保全便益	炭素固定便益	2,917,622	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	564	
	木材利用増進便益	121	
	木材生産確保・増進便益	1,857,593	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	12	
	森林整備促進便益	885,908	
総 便 益 (B)		21,392,816	
総 費 用 (C)		3,793,135	
費用便益比	$B \div C = \frac{21,392,816}{3,793,135} = 5.64$		

# 森林環境保全整備事業 標茶町地区 概要図 【北海道】



標茶町



凡 例	
市 町 村 界	
施工箇所 (林道整備)	
未施工 (林道整備)	
施工済 (林道整備)	

	森林整備
①	森林管理道 シラルト口線
②	森林管理道 シラルト口支線